

過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅱ

—山口県錦町高年者（60歳以上）調査—

Comparative Study of the Depopulation and Aging in Local Community Ⅱ :
Research Report of the Elders (over 60 years old) in Nishiki Township (Yamaguchi Prefecture)

吉 良 伸 一

Shin-ichi Kira

ABSTRACT

The percentage of the total population over age 65 has increased more than 34% in Nishiki township. In this area, the depopulation and aging of population is the most serious in Japan. Through the research on elders in Nishiki Township, we report on the characteristic of the families and community in this area.

1 錦町の概要

国土庁1995年度版「過疎対策の現況」（過疎白書）では、95年度国勢調査速報による過疎地域の人口は90年国勢調査に比べ4.6%の減少（全国1.6%増）となっている*1。過疎地域の5年ごとの人口増減率は、1980年-4.2%・1985年-3.6%と鈍化したが、1990年-5.5%そして今回1995年の-4.6%と再び加速される勢いをみせている。従来、不況時には大都市部の民間需要の低下と公共事業等により地方の人口減少に歯止めがかかる傾向があったが、今回はバブル崩壊後の不況にもかかわらずかなりの減少があったことに注意する必要がある。これは今日の人口減少が人口の社会減（転出>転入）によるもの以上に、自然減（死亡>出生）によるものが大きくなったためである。

地域ブロック別に過疎化の状況を見ると、中国地方は過疎市町村の割合では北海道69.3%・九州53.4%・中国52.8%と第3位である（平成6年4月現在・全国37.1%）。過疎地域人口割合では、北海道17.7%・九州17.5%・四国15.4%・東北13.8%・中国12.4%と第5位である（平成2年国勢調査・全国6.5%）。過疎地域面積割合では北海道64.0%・九州60.4%・四国58.5%・中国54.4%と第4位となる（平成5年全国47.7%）。中国地方の過疎地域の特徴は65歳以上の高齢者の割合が24.1%ともっとも高い。次いで近畿22.6%・四国22.3%で全国過疎地域は20.6%となっている。逆に15~29歳の若年者人口は12.5%ともっとも低い（平成7年国

勢調査・全国過疎地域13.7%)。この結果、1985年から1990年の人口の自然減少市町村率は四国の69.9%に次ぎ中国ブロックが68.9%となっている。中国地方の過疎化の特徴は過疎化が広範に広がっていること、及び過疎地域の高齢化がもっとも進んでいることに大きな特徴がある*2。

山口県玖珂郡錦町は、山口県の東北部・中国山地の一画にあって、東は広島県・西は島根県との県境に接している。山口県でもっとも高い寂地山をはじめ1,000m級の山々がそびえ、町の中央を県下最大の錦川と宇佐川が流れ、総じて急峻な山地で平坦地は少ない。集落は山間の谷沿いに点在し典型的な山村である。古くは山代の郷としてひらけ、藩政期には前奥山代宰判に属し*3、紙・ロウの産地として栄えた。明治22年町村制施行以降は、広瀬町・深須村・高根村として発展してきた。昭和30年、3ヶ町村が、合併して、錦町となる。人口は平成7年4月現在で4685人で、昭和30年12,320人を数えた人口は昭和38年の豪雪を契機に激減している。

平成7年国勢調査では錦町の平成2年からの5年間の人口減少率は-6.5%で全国3232市町村中383位(降順)・山口県では13位である。65歳以上人口の割合は、平成6年の住民基本台帳では34.5%で全国57位(降順)となっている。山口県では東和町(全国1位)46.3%・橋町(13位)38.7%・本郷町(17位)38.0%・上関町(25位)36.7%・大島町(33位)36.3%・美川町(51位)34.7%に次ぐ。山口県は高齢化した町村が多いのが特徴である。15歳未満の人口は、錦町11.3%で92位(昇順)である。山口県では東和町全国17位・美川町21位・橋町27位・大島町33位・上関町44位の順である*4。

2 調査の概要

この研究の目的は、過疎化－高齢化した地域の地域的特性を、地域社会の構成や家族の特徴から分析し、今後の過疎化－高齢化の進行状況に関わる知見と対策を得ることにある。今回の高年者調査に先駆けて、錦町府谷(ふのたに)地区調査を1996年3月8日と9日に実施した。調査員は大分県立芸術文化短期大学学生11名と吉良の計12名で、府谷地区対象世帯全戸を聞き取りと留め置き法を併用して調査した。調査結果の概要は、大分県立芸術文化短期大学研究紀要第34号(1996年)『過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究－山口県錦町府谷地区調査報告－』で報告した*5。

今回の高年者調査は府谷地区調査をふまえ、錦町の60歳以上高年者の生活状況を把握するために平成8年12月に実施した。調査の企画・立案は大分県立芸術文化短期大学コミュニケーション学科吉良伸一が担当した。調査票の作成にあたっては、錦町企画情報課と共同で作成した。調査結果の分析・集計・分析は吉良が担当した。なお、調査の実施・集計・分析にあたっては、文部省科学研究費基盤研究C「過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究」(研究代表者 吉良伸一)の交付をうけた。

調査の実施は、平成8年12月末から平成9年1月上旬にかけて、錦町企画情報課が担当した。調査方法は自記式の調査票留置法により実施した。回収数は1829票であるが、記述が不完全な105票を無効として、1724票を集計した。平成7年10月の国勢調査による錦町60歳以上人口2067人を母数として、有効票1724の有効回収率は83.4%である。

3 対象者の基本属性

対象者1724名中男性747(43.3%)・女性923(53.5%)・無記入54(3.1%)となっている。無記入を除くと男性44.7%・女性55.3%で、平成7年10月国勢調査の60歳以上人口では男性43.6%・女性56.4%、やや女性が少ないが統計的にはほとんど問題にはならない。

次に性別×年齢別に今回調査と平成7年住民基本台帳人口を比較したものが次の表である。男女とも80歳以上の割合が今回調査で少ない。これは自記式調査のため、病気や障害等で答えられない者がでるためである。男女計の80歳以上で3.7%の差がでている。女性の80歳以上で3.6%とやや誤差が大きい。全般的に現状の把握という点からは十分なデータであるといえよう。

今回調査と国勢調査人口 性×年齢構成

(男性)	今回調査		国勢調査	
	60-64	178	10.3%	231
65-69	195	11.3	235	11.4
70-74	138	8.0	148	7.2
75-79	106	6.1	123	6.0
80-	113	6.6	164	7.9
無記入	17	1.0	—	—
小計	747	43.3	901	43.6
(女性)	今回調査		国勢調査	
	60-64	222	12.9	238
65-69	183	10.6	239	11.6
70-74	205	11.9	268	13.0
75-79	146	8.5	192	9.3
80-	152	8.8	229	11.1
無記入	15	0.9	—	—
小計	923	53.5	1,166	56.4
(合計)	今回調査		国勢調査	
	60-64	400	23.2	469
65-69	378	21.9	474	22.9
70-74	343	19.9	416	20.1
75-79	252	14.6	315	15.2
80-84	265	15.4	393	19.0
無記入	54	3.1	—	—
合計	1,724	100	2,067	100

年齢構成は60-64歳が23.4%・65-69歳22.6%・70-74歳20.9%・75-79歳15.3%・75-79歳15.3%・80歳以上16.0%・無記入1.9%である。男性では65-69歳が26.1%と多く、女性では70-74歳が22.2%と男性より多い。性別と年齢構成では5%水準の有意差がある。

上段：実数 下段：横%		合 計	年 齢					不 明
			60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80歳 以上	
全 体		1724 100.0	404 23.4	389 22.6	360 20.9	263 15.3	275 16.0	33 1.9
性 別	男 性	747 100.0	178 23.8	195 26.1	138 18.5	106 14.2	113 15.1	17 2.3
	女 性	923 100.0	222 24.1	183 19.8	205 22.2	146 15.8	152 16.5	15 1.6

カイ自乗値 自由度 確率 有意差判定
11.55 4 4.02 [p < .05]

居住地区は広瀬地区43.0%・広東地区11.7%・深須地区18.3%・高根地区20.2%・無記入6.8%である。地区別の性別構成・年齢構成には有意差はでていない。

学歴は小・中学校卒の初等教育が71.6%・高等学校・旧制中学・旧制女学校の中等教育が18.0%、旧制高校・旧制高専・大学などの高等教育5.7%、無記入4.7%となっている。性別では有意差がないが、年齢別では60-64歳で高等教育の割合がやや高く、有意差がでている。

上段：実数 下段：横%		合 計	学 歴			
			小学校・ 高等小学 校・(新 制) 中学	(旧制)中学 女学校 (新制)高校	(旧制)高校 高専・大学 (新制)短大 大学	不 明
全 体		1724 100.0	1235 71.6	310 18.0	98 5.7	81 4.7
性 別	男 性	747 100.0	547 73.2	121 16.2	47 6.3	32 4.3
	女 性	923 100.0	654 70.9	181 19.6	48 5.2	40 4.3

(次頁に続く)

過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅱ

(前頁の表の続き)		合 計	学 歴			
			小学校・ 高等小学 校・(新 制) 中学	(旧制) 中学 女学校 (新制) 高校	(旧制) 高校 高専・大学 (新制) 大学 短大	不 明
上段：実数 下段：横%						
年 齢	60～64歳	404 100.0	273 67.6	45 11.1	62 15.3	24 5.9
	65～69歳	389 100.0	259 66.6	107 27.5	15 3.9	8 2.1
	70～74歳	360 100.0	262 72.8	69 19.2	10 2.8	19 5.3
	75～79歳	263 100.0	203 77.2	46 17.5	3 1.1	11 4.2
	80歳以上	275 100.0	214 77.8	40 14.5	7 2.5	14 5.1
	居 住 地 区	広 瀬	741 100.0	499 67.3	155 20.9	55 7.4
広 東		202 100.0	139 68.8	45 22.3	13 6.4	5 2.5
深 須		316 100.0	247 78.2	30 9.5	20 6.3	19 6.0
高 根		348 100.0	268 77.0	63 18.1	6 1.7	11 3.2

4 出生地・他出経験・定住意志

出生地は錦町生まれが67.1%・町外生まれが32.0%・無記入1.0%である。町内生まれは男性81.1%・女性55.5%と男性で町内生まれが多い。性別で有意差があるが、年齢別では有意差はない。

学校の関係や仕事で錦町を離れたことのある人は、ある43.8%・ない53.4%・無記入2.8%である。男性である52.5%・女性36.1%で有意差がある。年齢別でも有意差があり60-64歳であるが少なく70歳代で他出経験が多い。男性70-74歳で他出経験あり68.1%ともっとも多い。女性80歳以上が27.0%と60-64歳が31.1%と少ない。

他出経験のあるものの他出期間は1年から5年が36.3%、ついで10年以上が27.8%・5年から10年未満22.4%・1年未満10.6%となっている。男性で5年以上が多く、女性で5年未満が多い。年齢が高いほど他出期間が長くなる傾向がある。

吉 良 伸 一

他出先は岩国市・美川町などの近隣市町村が161(21.3%)・その他の山口県内125(16.6%)・広島県および島根県157(20.8%)・その他93(12.3%)であるが、無記入が219(29.0%)である。岩国市が124・広島県133が多い。

現在住んでいるところにこのまま住みたいかでは、住みたい76.4%・よそに移りたい1.8%・老人ホームなどに入りたい2.3% (39名)・どちらともいえない6.8%・わからない8.4%・無記入4.6%である。性別では有意差がないが、年齢別で年齢が高いほどこのまま住みたいが多くなる。

上段：実数 下段：横%		合 計	錦町生まれ			他 出 経 験		
			は い	い い え	不 明	あ り	な し	不 明
全 体		1724 100.0	1156 67.1	551 32.0	17 1.0	755 43.8	920 53.4	49 2.8
性 別	男 性	747 100.0	606 81.1	136 18.2	5 0.7	400 53.5	337 45.1	10 1.3
	女 性	923 100.0	512 55.5	400 43.3	11 1.2	333 36.1	554 60.0	36 3.9
年 齢	60～64歳	404 100.0	253 62.6	143 35.4	8 2.0	142 35.1	252 62.4	10 2.5
	65～69歳	389 100.0	273 70.2	115 29.6	1 0.3	174 44.7	208 53.5	7 1.8
	70～74歳	360 100.0	251 69.7	106 29.4	3 0.8	188 52.2	158 43.9	14 3.9
	75～79歳	263 100.0	178 67.7	83 31.6	2 0.8	131 49.8	124 47.1	8 3.0
	80歳以上	275 100.0	182 66.2	93 33.8	— —	110 40.0	159 57.8	6 2.2
	居 住 地 区	広 瀬	741 100.0	464 62.6	268 36.2	9 1.2	308 41.6	413 55.7
広 東		202 100.0	139 68.8	60 29.7	3 1.5	118 58.4	78 38.6	6 3.0
深 須		316 100.0	243 76.9	72 22.8	1 0.3	144 45.6	163 51.6	9 2.8
高 根		348 100.0	254 73.0	93 26.7	1 0.3	148 42.5	192 55.2	8 2.3

5 収入・仕事

現在収入のある仕事にしている人は37.1%・していない58.1%・無記入4.8%である。

平成4年の厚生省「国民生活基礎調査」では、全国60歳以上で仕事をしている人は32.2%・山口県29.4%、全国・山口県平均よりかなり高い。男性で仕事をしている48.1%・女性28.7%、60-64歳では男性71.3%・女性49.5%が、65-69歳で男性59.5%・女性36.6%が仕事をしている。

仕事の内容は、農林漁業が32.7%と最も多く、商工サービス自営19.6%・労務系の仕事18.9%・事務技術職8.1%などとなっている。男性では農林漁業が40.4%・労務系25.3%が多い。女性では商工サービス自営27.2%・農林漁業22.6%が多い。地区別では広瀬で農業が27.3%と少なく商工サービスが28.1%と多い。高根で農林漁業が41.1%と多い（数表略）。

1ヶ月の収入は、5万円以内21.8%・5万から10万円以内20.6%・10万から15万円以内12.3%・15万から20万円以内7.9%・20万円から25万円以内7.6%・25万円から30万円以内3.1%・30万円以上3.4%・無記入23.4%となっている。男性で5万から10万以内が16.7%が最も多く、女性では5万円以内が28.5%と最も多い。男性では5万以内から25万円くらいまでちらばっている。

主な収入源は、年金49.9%・仕事からの収入18.0%が多い。無記入が30.1%と多く、財産からの収入0.6%・子どもからの援助0.5%・生活保護などの社会保障0.4%となっている。男女とも年金が多いが、男性で仕事からの収入26.8%が女性11.4%に比べ多い。複数回答では年金受給が72.3%・仕事から29.8%（男性41.1%・女性21.3%）となっている。

上段：実数 下段：横%		合 計	仕 事		
			仕事をし ている	仕事をし ていない	不 明
全 体		1724 100.0	639 37.1	1002 58.1	83 4.8
性 別	男 性	747 100.0	359 48.1	361 48.3	27 3.6
	女 性	923 100.0	265 28.7	610 66.1	48 5.2
年 齢	60～64歳	404 100.0	240 59.4	157 38.9	7 1.7
	65～69歳	389 100.0	187 48.1	181 46.5	21 5.4
	70～74歳	360 100.0	112 31.1	231 64.2	17 4.7
	75～79歳	263 100.0	58 22.1	186 70.7	19 7.2
	80歳以上	275 100.0	33 12.0	230 83.6	12 4.4

6 健康状態

健康状態は健康41.1%・あまり健康とはいえない49.9%・寝たり起きたり3.2%・6ヶ月以上寝たきり1.0%・無記入4.4%である。寝たり起きたりは56人・寝たきりは18人となっている。男性で健康45.6%・あまり健康でない46.5%、女性では健康37.8%・あまり健康でない53.3%となっている。寝たり起きたりの56人のうち33人が80歳以上・寝たきり18人のうち11人が80歳以上である。

		合計	健康状態				
			健康	あまり健康とはいえない	寝たり起きたり	6ヶ月以上床につききり	不明
上段：実数 下段：横%							
全体		1724 100.0	714 41.4	860 49.9	56 3.2	18 1.0	76 4.4
性別	男性	747 100.0	341 45.6	347 46.5	28 3.7	6 0.8	25 3.3
	女性	923 100.0	349 37.8	492 53.3	27 2.9	11 1.2	44 4.8
年齢	60～64歳	404 100.0	224 59.4	164 40.6	5 1.2	— —	11 2.7
	65～69歳	389 100.0	178 45.8	187 48.1	4 1.0	3 0.8	17 4.4
	70～74歳	360 100.0	137 38.1	199 55.3	4 1.1	1 0.3	19 5.3
	75～79歳	263 100.0	76 28.9	162 61.6	9 3.4	2 0.8	14 5.3
	80歳以上	275 100.0	86 31.3	137 49.8	33 12.0	11 4.0	8 2.9
	居住地	広瀬	741 100.0	318 42.9	368 49.7	20 2.7	7 0.9
広東		202 100.0	76 37.6	105 52.0	8 4.0	3 1.5	10 5.0
深須		316 100.0	138 43.7	150 47.5	13 4.1	3 0.9	12 3.8
高根		348 100.0	149 42.8	172 49.4	11 3.2	2 0.6	14 4.0

過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅱ

		合計	健康状態				
			健康	あまり健康とはいえない	寝たり起きたり	6ヶ月以上床につききり	不明
上段：実数 下段：横%							
性別 × 年齢	男性	747	341	347	28	6	25
		100.0	45.6	46.5	3.7	0.8	3.3
	60～64歳	178	106	62	4	—	6
		100.0	59.6	34.8	2.2	—	3.4
	65～69歳	195	100	86	1	1	7
		100.0	51.3	44.1	0.5	0.5	3.6
	70～74歳	138	58	73	2	1	4
		100.0	42.0	52.9	1.4	0.7	2.9
	75～79歳	106	33	64	5	2	2
		100.0	31.1	60.4	4.7	1.9	1.9
	80歳以上	113	37	56	16	2	2
		100.0	32.7	49.6	14.2	1.8	1.8
	女性	923	349	492	27	11	44
		100.0	37.8	53.3	2.9	1.2	4.8
	60～64歳	222	116	101	—	—	5
	100.0	52.3	45.5	—	—	2.3	
65～69歳	183	75	96	3	2	7	
	100.0	41.0	52.5	1.6	1.1	3.8	
70～74歳	205	69	122	2	—	12	
	100.0	33.7	59.5	1.0	—	5.9	
75～79歳	146	40	90	4	—	12	
	100.0	27.4	61.6	2.7	—	8.2	
80歳以上	152	44	78	17	8	5	
	100.0	28.9	51.3	11.2	5.3	3.3	

7 家族形態

同居者から家族形態を分類すると、単独世帯14.1%・夫婦のみの世帯41.1%・その他の核家族世帯8.2%・三世帯世帯8.6%・その他の世帯14.8%・無記入12.8%である。平成4年「国民生活基礎調査」で60歳以上のいる世帯では、単独世帯10.4%・夫婦のみの世帯30.0%となっており一人暮らしや夫婦のみ世帯の割合が高い。山口県平均では一人暮らし13.9%・夫婦のみ世帯39.7%で県平均とほぼ同じである。

結婚した子と同居している割合は17.7%・未婚の子と同居8.6%・同居していない56.0%・子どもはいない3.7%・無記入14.0%である。平成4年「国民生活基礎調査」では結婚した子と同居32.9%・結婚していない子と同居22.1%と全国平均の半分近い。山口県平均では結婚した子と同居23.6%・結婚していない子と同居17.4%で県平均よりかなり低い。

結婚した子と同居していると答えた人について、食事はいつも一緒にしている69.6%・時々一緒10.1%・まれに一緒2.6%・別々8.8%・不明8.8%である。財布は一緒10.5%・財布は別だがお金は出し合う46.7%・別々31.0%となっている。住まいは専用の居室はない11.4%・専用の個室あり53.6%・子どもと別棟20.9%・無記入14.1%である。

上段：実数 下段：横%		合 計	家 族 類 型					不 明
			単 独 世 帯	夫 婦 の み 世 帯 世 帯	そ の 他 核 家 族 世 帯	三 世 代 四 世 代 世 帯	そ の 他 の 世 帯	
全 体		1724 100.0	243 14.1	713 41.4	142 8.2	149 8.6	256 14.8	221 12.8
性 別	男 性	747 100.0	50 6.7	381 51.0	57 7.6	59 7.9	120 16.1	80 10.7
	女 性	923 100.0	188 20.4	310 33.6	79 8.6	86 9.3	135 14.6	125 13.5
年 齢	60～64歳	404 100.0	25 6.2	198 49.0	46 11.4	28 6.9	66 16.3	41 10.1
	65～69歳	389 100.0	41 10.5	174 44.7	24 6.2	45 11.6	47 12.1	58 14.9
	70～74歳	360 100.0	60 16.7	157 43.6	34 9.4	20 5.6	36 10.0	53 14.7
	75～79歳	263 100.0	60 22.8	95 36.1	24 9.1	22 8.4	35 13.3	27 10.3
	80歳以上	275 100.0	55 20.0	80 29.1	12 4.4	31 11.3	66 24.0	31 11.3

8 別居子との関係・親族・友人

別居している子どもがいる人は81.1%である。別居した子がいる人について別居に理由は子どもが就職ででた59.7%・子どもが結婚して他家にいる38.8%が多い。

別居子との時間距離は1時間から半日が32.5%ともっとも多い。次いで30分から1時間以内15.5%で、1時間以内は28.5%となる。不明が28.2%である。

別居子との関係は、野菜などを持ち帰らせる29.0%・心の安らぎを与えてくれる23.4%・孫

過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅱ

に小遣いをやる20.2%・時々出かけ泊まってくる14.6%・田畑の仕事をしてくれる10.1%・日用品を買ってきてくれる8.2%などとなっている。ただし無記入が41.8%と多い。全体に子どもからの援助は少なく、むしろ子どもへの援助が多い。

子どもと同居していない人について、別居子とあう頻度は年1回以上27.1%・月1から2回23.8%が多い。電話でのやりとりは時々39.1%・頻繁22.4%、手紙のやりとりはない24.3%・ときどき10.5%・行き来は時々ある38.3%・まれにある9.3%・頻繁7.8%である。残念ながら調査票の設計が悪かったため、どの設問も無記入が多い。

何か問題にぶつかったときに、相談にのってくれる子ども以外の親族は、1から2人が30.3%・3から5人が29.1%・6から9人13.1%・10人以上6.3%となっている。いないは7.3%である。性別・年齢で差はない。

親身になって聴いてくれるような友人は、1から2人34.4%・3から5人24.9%・6から9人7.4%・10人以上3.7%となっている。性別・年齢別で差はない。

上段：実数 下段：横%		合計	別居子との関係					心の安らぎを 与えて くれる
			日用品 を買っ てきて くれる	田畑の 仕事を してく れる	共同作 業など にでて くれる	経済的 な援助 をして くれる	身の回 りの世 話をし てくれ	
全体		1398 100.0	115 8.2	141 10.1	42 3.0	41 2.9	51 3.6	327 23.4
性別	男性	611 100.0	46 7.5	71 11.6	23 3.8	20 3.3	23 3.8	146 23.9
	女性	747 100.0	67 9.0	66 8.8	18 2.4	21 2.8	26 3.5	172 23.0
年齢	60～64歳	340 100.0	27 7.9	27 7.9	7 2.1	8 2.4	16 4.7	78 22.9
	65～69歳	325 100.0	25 7.7	31 9.5	8 2.5	9 2.8	9 2.8	61 18.8
	70～74歳	285 100.0	28 9.8	34 11.9	11 3.9	10 3.5	11 3.9	72 25.3
	75～79歳	210 100.0	17 8.1	22 10.5	6 2.9	7 3.3	8 3.8	57 27.1
	80歳以上	220 100.0	18 8.2	25 11.4	9 4.1	6 2.7	7 3.2	58 26.4

(次頁に続く)

(前頁の表の続き)		合 計	別居子との関係					不 明
			野菜な どを持 ち帰ら せる	時々で かけて 泊まっ てくる	こちら が経済 的援助 をして	孫に小 遣いを やって いる	その他	
上段：実数 下段：横%								
全 体		1398 100.0	405 29.0	204 14.6	46 3.3	282 20.2	43 3.1	584 41.8
性 別	男 性	611 100.0	170 27.8	91 14.9	18 2.9	123 20.1	22 3.6	243 39.8
	女 性	747 100.0	225 30.1	109 14.6	28 3.7	152 20.3	21 2.8	320 42.8
年 齢	60～64歳	340 100.0	94 27.6	56 16.5	14 4.1	73 21.5	9 2.6	155 45.6
	65～69歳	325 100.0	96 29.5	42 12.9	8 2.5	48 14.8	11 3.4	142 43.7
	70～74歳	285 100.0	94 33.0	50 17.5	13 4.6	72 25.3	7 2.5	103 36.1
	75～79歳	210 100.0	54 25.7	28 13.3	8 3.8	41 19.5	7 3.3	92 43.8
	80歳以上	220 100.0	62 28.2	27 12.3	3 1.4	44 20.0	7 3.2	83 37.7
	居 住 地 区	広 瀬	606 100.0	184 30.4	94 15.5	21 3.5	128 21.1	21 3.5
広 東		172 100.0	46 26.7	36 20.9	7 4.1	25 14.5	— —	75 43.6
深 須		260 100.0	67 25.8	28 10.8	7 2.7	49 18.8	12 4.6	124 47.7
高 根		269 100.0	89 33.1	40 14.9	11 4.1	65 24.2	9 3.3	106 39.4

9 余暇・悩み・心配事・幸福感・不安感

食事や睡眠・仕事の時間などを除く自由な時間の過ごし方（複数回答）について、テレビ・ラジオ57.9%がもっとも多く、家の雑用38.5%・家庭菜園づくり35.4%・休養23.8%・新聞雑誌を読む23.4%・散歩10.3%・病院がよい9.1%などとなっている。なお、地域の活動のお世話52人3.0%・ボランティア56人3.2%となっている。性別・年齢別で差はない。

過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅱ

悩みや心配事（複数回答）は、健康がすぐれない32.8%がもっとも多く、次いで経済的に不安定12.6%・仕事がない5.5%などとなっている。

全体的な感じとしていま幸せかという質問に対して、幸せ39.7%・まあ幸せ39.0%・あまり幸せではない5.4%・幸せではない2.0%・わからない3.4%・無記入10.6%となっている。性別・年齢別に差はない。

毎日に生活の中で不安を感じることもあるかという質問では、よくある11.5%・いくらか感じる41.8%・あまり感じない16.3%・ほとんど感じない16.3%・無記入11.4%である。性別・年齢別で差はない。不安感は一入暮らしや夫婦のみの世帯で高い。

幸福度は高いが、不安感もやや高い。

上段：実数 下段：横%	合計	悩み・心配事										
		健康が すぐれ ない	仕事 が ない	経済 的に 不安 定	財産分 け(遺 産 問題) のこと	家族と の関 係 がうま く いか ない	異性 と の 関 係 の こ と	友人 が い な い こ と	その他	悩み や 心 配 は な い	不明	
全体	1724 100.0	566 32.8	95 5.5	218 12.6	16 0.9	48 2.8	2 0.1	41 2.4	70 4.1	425 24.7	505 29.3	
性別	男性	747 100.0	240 32.1	41 5.5	84 11.2	8 1.1	26 3.5	— —	23 3.1	22 2.9	190 25.4	222 29.7
	女性	923 100.0	301 32.6	49 5.3	128 13.9	8 0.9	22 2.4	2 0.2	17 1.8	48 5.2	223 24.2	270 29.3
年齢	60～64歳	404 100.0	129 31.9	29 7.2	50 12.4	1 0.2	14 3.5	1 0.2	6 1.5	13 3.2	90 22.3	133 32.9
	65～69歳	389 100.0	131 33.7	19 4.9	47 12.1	5 1.3	9 2.3	— —	8 2.1	22 5.7	97 24.9	107 27.5
	70～74歳	360 100.0	102 28.3	15 4.2	56 15.6	9 2.5	6 1.7	— —	13 3.6	12 3.3	91 25.3	112 31.1
	75～79歳	263 100.0	93 35.4	11 4.2	34 12.9	1 0.4	10 3.8	1 0.4	7 2.7	11 4.2	67 25.5	71 27.0
	80歳以上	275 100.0	100 36.4	18 6.5	30 10.9	— —	8 2.9	— —	7 2.5	11 4.0	69 25.1	74 26.9

10 扶養・介護についての意識

子どもが老父母の面倒をみることについて、よいしきたり36.9%・子どもとして当然18.4%・福祉が不備だからやむおえない8.2%・よい習慣ではない4.0%・わからない14.8%・無記入17.7%となっている。不明を除くと、男性でよいしきたり42.7%・女性46.9%と女性で

よいしきたりとするものが多い。年齢で差はない。

体が弱くなって介護が必要になったとき、誰の世話を受けたいか（複数回答）について、家族・親族76.1%・公的サービス21.9%・福祉団体ボランティア10.2%・近所の友人3.6%・家政婦等の有料サービス2.9%・その他0.9%・無記入12.0%となっている。性別・年齢別で差はない。

家族・親族の中で、一番世話をしてもらいたい人は、配偶者39.9%・長男18.7%・娘17.0%・長男の嫁12.3%などが多い。性別・年齢別で差はない。

老人ホームの利用について、将来入所するかもしれないが41.4%とかなり多い。入所することはない8.1%・入所したくない6.7%・入所を希望3.4%・入所手続き中0.3%・わからない26.0%・無記入14.1%となっている。なお、入所希望は59人・手続き中5人である。性別・年齢別に差はない。

老後の生活責任について、自分の責任34.2%・家族の責任14.8%・行政の責任11.1%・社会の責任2.1%・わからない21.2%・無記入16.5%となっている。性別・年齢別で差はない。

ホームヘルプ・デイサービス・ショートステイ・入浴サービス・日常生活用具給付貸与・緊急通報システムなどのサービスについて、知っているかどうかという認知度は、ホームヘルプ69.2%・デイサービス67.3%・ショートステイ50.5%・入浴サービス56.2%・日常生活用具給付貸与35.0%・緊急通報システム43.7%となっている。日常生活用具給付貸与と緊急通報システムの認知度はやや低い、全般にかなり福祉サービスは知られるようになっている。なお、ここでは無記入が多いが、無記入のほとんどは知らないなどと考えられる。

次に利用状況は、ホームヘルプ70人4.1%・デイサービス178人10.3%・ショートステイ27人1.6%・入浴サービス46人2.7%・日常生活用具33人1.9%・緊急通報45人2.6%である。

利用希望は、ホームヘルプ43.7%・デイサービス44.3%・ショートステイ32.4%・入浴サービス31.7%・日常生活用具26.8%・緊急通報システム36.3%であり、これらのニーズがかなり急速に高まりつつあるように思われる。

11 若干の考察

今後比較検討を進める必要があるが、以上の調査結果から、若干の考察をおこないたい。

- 留置法の調査を実施したが、全般的に無記入がやや多い。有効な分析のためにはあと5%くらい調査票をしばった方がよかったかもしれない。それでも回収率は75%とかなり高い。
- 学歴で60-64歳の高学歴層がやや増加しつつある。高齢者の意識の変化が今後起こってくる可能性がある。
- 学校や仕事の関係で錦町を離れた人がかなり多い。男性では半数を超える。転出先は、岩国市・広島市・徳山市などの瀬戸内海沿岸の工業都市が多い。
- 仕事をしている人の割合がかなり高い。男性では農林漁業・女性でその他の自営が多い。
- 主な収入は年金が約半数・仕事からの収入約2割となっている。
- 単独世帯14.1%・夫婦のみ世帯41.1%と全国・山口県と比べ多い。
- 結婚している子供との同居は17.7%・全国・山口県を大きく下回る。

過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅱ

- 別居子との時間距離は1時間から半日がもっとも多い。比較的近くの山口県・広島県に子どもがいる。
- 悩みは、健康がすぐれない32.8%が多い。
- 幸福感は高いが、不安感も高い。一人暮らしや夫婦のみ世帯が多いためである。
- 老人ホームのニーズがかなり高い。子どもとの同居が困難なためであろう。
- 在宅福祉サービスへの認知度、および利用希望が急速に拡大しつつある。
- 表面的には生活に満足しながらも将来への健康面の不安が拡大しつつある。社会福祉サービスへの潜在的ニーズがかなり急速に拡大しつつあるように思われる。

高齢化が進行した過疎地域の高齢者というと、暗いイメージでとらえがちであるが、子どもに頼らず、むしろ子どもに援助を続けるたくましい高齢者像が浮かんできた。南九州の高齢者と比べて*6、比較的近いところに子どもがいるためでもあろう。他方で、老人ホームなど福祉に対する高齢者の認識が、急速に変わりつつある。在宅・施設とも、福祉ニーズが急速に拡大しつつあることを実感した。

注

- * 1 国土庁地方振興局『平成9年度版 過疎対策の現況』1997年。
- * 2 山本努著『現代過疎問題の研究』1996年。
- * 3 「長州藩では郷村支配の中間組織として20~30か村を一区域として宰判を設けて代官を置き……慶安4年(1651)ごろには18宰判が設置されていた。」「山代は前山代と奥山代に分かれ、山口・三田尻の各宰判と共に、特別に重視された。」錦町教育委員会編『錦町史』1988年。
- * 4 清光社『平成7年国勢調査人口 日本分県市町村統計』1996年。
- * 5 拙著「過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究—山口県錦町府谷地区調査報告」大分県立芸術文化短期大学研究紀要第34巻、1996年。
なお、同時期に九州大学文学部社会学・地域福祉研究室が錦町の2地区の調査を実施している。木下謙治他著「超過疎高齢化集落の現状と福祉問題」『ポイエーシス』no. 3、1996年7月。
- * 6 南九州の高齢者については染谷淑子『過疎地域の高齢者』学文社、1997年3月他参照。